

南笠東学区人権協会のより

南笠東パートナー情報

絆

きずな

第17号

2016年12月15日

南笠東学区
人権教育推進協議会

平成28年10月22日
合同フェスタ2016人権協
のブース
障がい者施設のパネル紹介
と若竹会のお菓子販売



平成28年7月29日
第3講座
『人権文化の広がり』
～ハンガリーと日本～
講師：藤田アニーさん



平成28年6月29日 歩° 歩° さんの人
権コンサート
南笠東小学校
市民センターと小学校の共同の取り組み

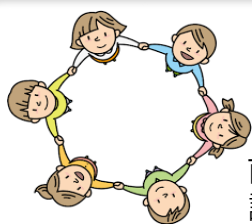
南笠東学区の歩み



平成28年9月23日 第4講座 二人語り～
人権ってなあに？～講師：凸凹迷コンビさん



平成28年10月7日 館外研修
～立命館大学 国際平和ミュージアム、ツラッティ千本、六角堂～



伝えよう 感謝の気持ち ありがとう

会長 川瀬 善行

南笠東学区の人権教育推進協議会の取り組みは、構成員である「町内会組織」「市民センター」「学校」の3つの軸足が、それぞれの活動領域に添った事業を展開するとともに、連携や相互研鑽により効果を上げるための調整や支援をしていくという立場をとっています。このようなことから、本年度は表題に掲げた標語を共通の指針とし、昨年に引き続き『人と人の関わり』から「大切にしたいことを温めていく」ことや「命の大切さ」「積極的に、話し合い・共感し合う」ことを呼びかけています。

人と話して自分が考えていたことが鮮明になったり、人の話を聞いて自分の心のなかに隠されていた答えが見つかることがあります。

いずれの場合も、「相手の人を理解し、信頼し合っていこうという気持ち」から生まれてくるように思います。

草津市では、今年の夏、生きがいをもち健やかで幸せに暮らせるまちの創造を目指し「健幸都市宣言」が行われました。心と身体の健康やバランスのとれた食事、美しい自然や住みやすい環境づくりなどの一人ひとりの取組の大切さが謳われています。そして、日ごろから幸せを実感してゆくためには「心のゆとり」や「仲間づくり」といった言葉が思い浮かびます。こういった「人と人の絆づくり」は人権教育推進の目指すところです。「笑顔あふれる地域社会」をみんなで創っていきましょう。

人権教育推進モデル町内会としての取り組みについて

東南笠町内会長

麻植 俊彦

人権教育といっても同和問題はもとより、セクハラ、パワハラ、障がい者差別、高齢者差別や虐待、女性差別、外国人差別、子どもに対する暴行やネグレクト等の虐待、DV、いじめ問題など、極めて間口が広く、町内の人権委員さんを中心とした町内会議の席でも、わが町内としてどういう取り組みをすべきかと皆でかなり悩みました。

そのような折、埼玉県東松山市の河川敷で16歳の少年が、不良グループ内の4人の少年により、いじめの果てに殺害されるという痛ましい事件が発生しました。

遑れば、大津市でもいじめにより、男子中学生が自殺するという事件もあり、そのような事

件が起きる度に関係者は「二度とこのような事件が起きないように…」と反省の念と決意を述べるのが通例となっていますが、その後も同様の事案が発生する度に、家族は気づかなかったのか、子どもはサインを出していなかったのか、周囲の大人も気づかなかったのか、と本当に切ない気持ちになりました。

そこで、当町内として本年の人権教育推進は、「いじめ、少年、人権」ということにポイントを絞り、まず少年を取り巻く環境の現状を知り、それを踏まえ我々大人に何ができるのか等を勉強することにしました。

子ども会や町内運営委員会において、「草津市いじめ防止基本方針」「少年のわいせつ被害の現状とSNSとの関係」「学校裏サイトやラインといじめの実態」等の資料を配布。

9月17日(土)に町内集会所において、町内会の各委員会委員に対し、元警察官から少年のスマートフォンの使用実態やその危険性、少年事件の現状などについて約30分間の講義を受け、その後意見交換等の勉強会を実施しました。

11月12日(土)町内集会所において 草津市立少年センターあすく草津 所長 中谷 仁彦 先生を講師にお迎えし、約50分間の「いじめ・少年・人権」をテーマとした講演と質疑応答を実施しました。

今後の予定として、来年3月末までに、県もしくは市より関連 DVD を借り受け、それを教材に町内集会所において勉強会を実施します。



町内学習懇談会の様子



中谷 仁彦先生

南笠東公民館人権講座について

南笠東市民センター長 舟木 朋宏

6月29日(水)南笠東小学校体育館において、市民センター主催、小学校 PTA 共催で、人権講座を開催しました。今回、草津市同和教育啓発講師団の歩° 歩° さんをお招きし、～感じてください 差別をなくすために～をテーマに歌や語りを披露いただきました。

『胸いっぱい愛をあげよう』は、「愛をあげる」「愛される」ことで人が幸せに生きていけるという、希望に満ち溢れた歌で、みんなが共に歌い、共感し、一体となる素晴らしい機会でした。

10月7日(金)京都市内にある人権ゆかりの地を訪ね、同和問題やあらゆる差別問題を考え、人権尊重の輪を広げていくために、学区人権教育推進協議会主催事業の共催・企画ということで研修を行いました。

立命館大学国際平和ミュージアムでは、過去の歴史や現代の紛争、貧困、飢餓など、今日世界が抱える課題について学ぶことができ、現実を理解することで人権や人命の尊さを改めて考えるきっかけとなりました。

また、ツラッティ千本の地域周辺には多くの観光地があり、多くの人々が訪れていますが、都市整備の影に隠れ、部落差別の歴史や背景、課題などあまり知られておりません。そのような中、ガイドの方からわかりやすい説明に加え、文化、生活についての写真やパネル、模型などから、長きに渡る部落差別と今日までの千本地区のまちづくりの移り変わりを学びました。

依然として同和問題をはじめ、あらゆる人権問題が残っておりますが、無関心や同調、傍観は問題の解決にはならず、意識の高揚のためには研修会などに参加して正しく学び、偏見に左右されない考えを持つことが大切であると感じました。

南笠東卓球同好会の取り組みについて

公民館利用者団体 代表 勝島 三男

南笠東卓球同好会は老若男女ならぬ老々男女の14名の会員が活動しています。

会のモットーは会員相互の親睦と運動不足の解消が目的であり、ベテラン・初級者と多少の技量差はありますが、相手の立場を考えた練習方法を取り入れています。練習の合間には世間話をしたり、冗談を言い合ったり、和気あいあいと話が弾み、青春ならぬ老春を謳歌しています。

ただ、親しき仲にも礼儀有りという言葉がある様に礼儀作法の一貫として練習の前後に「お願いします」「有難うございました」の挨拶を交わしています。

今年も夏休みの2日間、南笠東小学校の子ども達と一緒に卓球を楽しみ、我々と孫、ひ孫世代との練習を通して交流を深めることが出来ました。この時も我々が行っている挨拶を子ども達に提案した所、きちっと聞き入れてくれ、帰る際には全員で「ありがとうございました」と言ってくれた時には素直にうれしかったです。

全員すべて気持ちだけは若いつもりです。今後も体が動く限り活動は続けていきたいと思います。



南笠東卓球同好会のみなさん

南笠東小学校の取り組みについて

PTA人権教育推進委員会

南笠東小学校PTAでは、会員を対象とした学習の機会として、人権教育テーマ別学習会を行っています。今年度は6月15日(水)に「セルフエスティームとエンパワメント」と題した講演に146名、6月29日(水)に市民センターと共催の人権コンサートに142名(内PTA52名)の参加がありました。また、玉川中学校区の人権講座にも積極的に参加しました。さらに、今年度は、8月6日(土)に行われた草津市人権同和教育研究大会で、本校の取り組みを提案させていただきました。1月には、学校での人権学習参観のあと、人権に関する学級懇談会を行う予定です。



人権同和教育研究大会の様子

玉川中学校の取り組みについて

人権教育推進委員 橋本 義弘

玉川中学校PTAでは、「つながり、気づく人権教育～親子のコミュニケーションを通して～」を研修テーマとし、6月には篠原嘉一先生の、「ソーシャルサイトのリスク～あなたの投稿は消せない～」をテーマに、スマホやネットに潜む危険について具体的にお話しくださり、親子で学ぶ場として生徒と一緒に聞きました。感想では「むやみに変な動画を撮って投稿したりすると、将来の自分に関わってくるので気を付けたいと思いました」などがありました。11月には神田樹希先生の「命を繋いだ日から～魂が震える生き方をしていますか?～」をテーマに、自らの体験を踏まえて“言葉の力”や人と人とのつながりの大切を話されました。本当に人と人とのつながりを大切にしているのか、と自らの人生を振り返る良い機会となりました。また、人権推進委員が参加した講演の報告を人権だより『きづき』に掲載し情報提供しています。

町内学習懇談会推進者研修講座(第1・第2講座)

草津市人権センター 西邑 祥明

平成28年7月2日(土)に草津クレアホールを会場に開催しました。

第1講座では、部落解放同盟草津市協議会橋岡支部副支部長の山本啓一さんを講師に迎えて、『今なお続く部落差別の解消に向けて』を演題にご講演いただきました。

第2講座では、三重県人権センターの味岡一博さんを講師に迎えて、『謂われなき差別(部落差別)は、どのようにしてつくられたのか』を演題にご講演いただきました。

今後も様々な研修講座にご参加いただき、ともに学び合いたいと考えます。



講演の様子



人権標語優秀作品

小学生

(敬称略)

標語の部

みとめあおう みんなそれぞれ ちがうこと	房野 亜虹	(5年)
だいじょうぶ その一言で 救われる	浅野 実和	(5年)
ありがとう 言えば言うほど ひろがるよ	松本 悠月	(3年)
「ありがとう」 まほうの言葉 つかおうね	宗田 詩織	(3年)
どうしたの わたしがいるよ だいじょうぶ	棚瀬 莓花	(1年)
やさしさって、ともだちがにまっているとき「どうしたん。」っていう。	市井 榊	(1年)

作文の部

人権週間をとおして	川口 紗奈	(6年)
私たちとちがっても友だち	中嶋 萌依	(4年)
がんばれといいたい	横山 慶太	(2年)

中学生

標語の部

一人ひとり 自分が持つ色 輝かそう	小嶋 大地	(3年)
人権を 学んで伝えて いじめなし	横山 涼風	(3年)
声出して 小さな勇氣 「どうしたの？」	藤野 結衣	(2年)
心の目 開いてみよう 広がる世界	小田嶋 あかり	(1年)
人は皆 命の重さは 一緒だよ	五十嵐 光咲	(1年)
気づこうよ 心で泣いてる 友達を	坂本 彩音	(1年)

作文の部

女性の人権	畑 美月	(2年)
地域とのふれあいの大切さ	西田 未結	(2年)
諦めない心の原点	薮内 あゆみ	(1年)

一般の部

思いやり 深い絆で 手をつなごう	勝島 三男 (モデル団体)
今、出会った人を 大切に	勝島 百合子 (モデル団体)
どうしたの そのひとことに すくわれる	福別府 澄子 (モデル団体)
人権は あなたの持つ 心から	駒井 久雄 (モデル団体)
なにげない 言葉で傷つく 人もいる	麻植 俊彦 (モデル町)
悲しいな 見て見ぬふりと 無関心	河合 徹 (モデル町)
何ごとも ありがとうの言葉が 幸福につなぐ	大西 和馬

※優秀作品は2月の実践発表のつどいで表彰させていただきます。



「実践発表のつどい」のお知らせ

日時:平成29年2月25日(土) 13:30～
 場所:南笠東市民センター
 目的:人権推進に取り組んだ成果を活動の領域
 ごとの発表とし、情報を共有していきま
 しょう!
 内容:優秀作品の表彰(人権標語、作文)
 学区人推協の取り組み
 モデル町、モデル団体等の活動報告



編集後記

昨年「絆」はパートナー情報紙
 のひとつとして12月に発行し、学区の
 団体やグループの活動を広く地域の
 皆様にお伝えする紙面としました。
 この紙面は活動の一部ですが、次年度に繋がる
 情報源としてご活用願いたく存じます。投稿くだ
 された方々だけでなく事業にご参加くださった皆
 様にも感謝いたします。ありがとうございました。

事務局長 川瀬 孝弘

